

「リフォーメーションの信仰」

10/29/17

1517年10月31日、マルティン・ルターは、当時のカトリック教会の教えに反対してドイツ・ウィッテンベルグ城内の教会の扉に「95箇条の論題」を掲示した。一般的には、この出来事が宗教改革（リフォーメーション）の始まりといわれている。

ルターをこのような行為に駆りたてたのは「贖宥状（しょくゆうじょう）」制度であった。

「救い」に関して、改革者たちが掲げていたスローガンを今朝は振り返る。

- ①Sola Scriptura：聖書のみ
- ②Sola Fide：信仰のみ
- ③Sola Gratia：恵みのみ
- ④Sola Christus：キリストのみ
- ⑤Soli Deo Gloria：神の栄光のみ

A. 御言葉・聖書のみ
聖書が最高の権威である。

ジョン・ウィクリフ（1320年頃～1384年）

マルティン・ルター

1521年4月16日ヴォルムス帝国議会の後、ヴァルトブルク城で約10ヶ月を過ごした。

「聖書のみことばか明白な根拠によって納得させられない限り、私は教皇や公議会の権威を受け入れません。彼らは互いに矛盾したからです。私の良心は神の言葉にとらえられています。私は何一つ撤回できませんし、そのつもりもありません。良心に反したことをするのは、正しいことでも安全なことでもないからです。神よ。私を助けたまえ。アーメン。」

その理由：聖書が最高の権威である理由

- ①神のことば
- 救いを得る方法を教えている ヨハネ5：39、20：31、2テモテ3：15

●私たちの誕生の目的と存在の意義を教えている コロサイ1：16

●どのように生きるのかを教えている 2テモテ3：16、17、ローマ15：4

②真理だから ヨハネ17：17、詩篇119：160

今日、教会における”聖書の不可思議な沈黙”ということが指摘されつつある。だが、聖書の権威が地に落ち、「主のことばを聞くことのききん」（アモス8：11）が起こる時に、教会の中に何が結果するのであろうか。それは、説教の弱体化であり、教会教育の崩壊であり、信仰のやせ細りであり、信徒の聖書研究熱の低下であり、宣教の情熱の喪失である。いや、それ以上に、福音の中心であるイエス・キリストご自身が見えなくなるという最も重大な事態が発生するのである。これは約2000年に及ぶ教会の歴史が教える明確な法則である。今こそ神の民は、16世紀の宗教改革が命がけで打ち立てた「聖書のみ」という大原則が意味するところに注目すべきである。…教会は常に神の言葉に立ち返り、それを規準として誤りを正すとともに、御言葉と御霊とによる霊的な刷新とリバイバルを求めなければならないのである。（宇田進 現代福音主義神学 p.240-241）

B. 信仰のみ ローマ4：5、ガラテヤ2：16

C. 恵みのみ エペソ2：1-9

D. キリストのみ 使徒4：12、1テモテ2：5、6、ヨハネ14：6

E. 神の栄光のみ 1テモテ6：15、1コリント6：20、10：31、ローマ11：36

ヤン・フス（1369年頃 - 1415年7月6日）は、ボヘミア出身の宗教改革者。